

# 「五葉山の魅力」

五葉山自然倶楽部  
創立10周年に寄せて

(48)

いつも変わらず決まって訪れる、いのち輝く季節。春先の木々の一本一本が言います。

「わたし、ここにいるのよ」

淡く壊れそうなほどの彩り、風に揺れる柔らかな葉は、木々の個性そのもので、無限の淡い色の集合体はまるでシンフォニーのようです。

「ああ気持ちいいね」  
「初めましてよろしく」

いとおいしいまでの若葉のささやきです。この季節、私は陸前高田から住田を通り盛岡や花巻へ車を走らせるのが楽しみです。

車窓には、緩やかに流れる気仙川、両岸の樹木、植えたばかりの田んぼの苗、背後の里山の風景が広がっていきます。見飽きることはありません。芽吹きはさすがしく、美しい輝きを発しています。

新緑の風景に、歩んできた道を顧みることがあります。人生が順風であること、満帆であることに越したことはありませんが、そうでなかったからといって決して「不遇」とも思えないのです。

リレー  
エッセイ

## 母校の「クルミの木」

陸前高田市広田町 西條 一恵

を丁寧に教え、当たり前な語りかけ笑顔を向けてくれました。

私はそのこと自体がありがたく、嬉しかったのです。少しづつ明るさを取り戻し、元気を回復させていたことを今も忘れることはありません。差し伸べられる手の温かさは宝物です。

私は、まわりの人たちに癒され、励まされ、元気つけられ、今生きています。

今、私はどんなに苦し

いことや哀しいことがあっても、いつかきつと喜びやうれしさを感じる日が訪れることを信じていることができます。

早世の詩人、金子みすゞの「私と小鳥と鈴」という詩に、「鈴と、小鳥と、それから私みんなちがって、みんないい」という一節があります。この詩は「みんなち

がって、みんないい」という一節があります。この詩は「みんなち

がって、みんないい」という一節があります。この詩は「みんなち

がって、みんないい」という一節があります。この詩は「みんなち

がって、みんないい」という一節があります。この詩は「みんなち

がって、みんないい」という一節があります。この詩は「みんなち

がって、みんないい」という一節があります。この詩は「みんなち

がって、みんないい」という一節があります。この詩は「みんなち

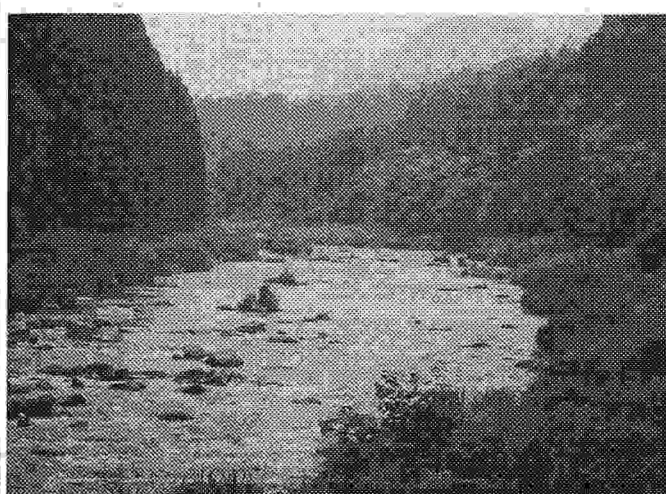
がって、みんないい」という一節があります。この詩は「みんなち

を象徴する霊峰・五葉山。この地域にとって五葉山はまさに「クルミの木」なのかも知れません。自然の営みの中に身も心もおいて、自然の中に自分自身を投影して

ます。

早春の訪れに見る無限の命の存在にそんな思いを強くします。母校の「クルミの木」のように、私もいつの日か黙って話を聞いていられる存在でありたいと思うのです。

【執筆者プロフィール】陸前高田市広田町在住。一九五九年生まれ。あすなろホムン勤務。



車窓から見える気仙川とその周辺の風景。生命の輝きを感じさせる新緑の季節